四四ニ對スル附議

大野内記君

私ノハ累積的結核感染デハアリマセヌガ之ニ類似セル一定度免疫(過敏)獸ニ對スル演者同樣ノ實驗ヲ行ヒ然モ其結果ニ多クノ類似點ヲ有スルガ爲一寸追加致シマス。

試獸ハ計九十三頭中三十八頭ハ對照健康獸デ他ノ五十五頭ニ對シ死結核菌及生態粉狀結核菌ノ內服或ハ注射ニヨリ免疫ヲ施ス事三四ケ月間計三十回以上百二十回ニ及ビ後「ツベルクリン」皮膚反應竝ニ熱反應ニヨリテ一定度免疫乃至過敏性達成ヲ證明シタル後、眼、鼻腔咽腔試驗ヲ行ヒタル結果ヲ通覽シテ簡單ニ申述ブルナラバ、卽チ免疫獸ノ大部分ハ反應一般ニ强ク病變急劇ニシテ炎衝症狀モ高度ナリ。

局所反應、淋巴腺ノ態度、內臟ノ病變等モ一般ニ迅速且高度ニシテ乾酪變性モ早期ニ死亡日數モ短ク且多數ナリ。サレド此危險期間ヲ突破シテ一定期間生存セル動物ハ反ツテ對照ヨリモ長生シ今御話ノ樣ナ慢性結核ノ像ヲ呈シ中ニハ空洞形成ヲ爲セルモノモアリキ、之レ勿論菌種、菌量個性ニモヨルベケレド主因ハ一定度免疫過敏性達成ノ結果ナリト見ルベク累積的感染ト類似セル點多シト思ヒコレダケ追加致シマス。

四五、鳥型結核菌及ビ僞結核菌ニヨル人型結核菌ニ對スル免疫

高橋三千彥君(大阪醫大)

鳥型結核菌及ビメルラー氏抗酸性菌、チモチー桿狀菌、牛乳ヨリ分離セル抗酸性菌ノ生菌ヲ海猥ノ皮下及ビ靜脈內ニ注射シタル後、一定時ノ後人型結核菌ヲ感染セシメ其病變ヲ檢シタルニ余ノ檢シタル方法ニテハ何レノ場合ニ於テモ著明

ニ人型結核菌ニ對スル免疫セルヲ證明シ能ハズ。

四六、ドリヤー氏「ワクチン」、「オレヲワクチン」、「ツベルクロプロテン」ノ免疫賦與ニ就テノ「モルモット」ニ於ケル實驗

稅所亥二郎君（大阪醫大）

トリヤー氏法ニ從ツテ作製セル脫脂「ワクチン」、「オレイン」酸ニテ處置セル「オレヲワクチン」、並ニチンサー氏法ニテ製セル「ツベルクロプロテン」ノ各種量ニテ處置セル「モルモット」ニ就テ「ツベルクリン」皮內反應及人型生結核菌ノ感染後ノ病變ヲ檢シタルニ、何レモ著シキ免疫ヲ與ヘルコト能ハズ。

四七、反復感染ノ結核經過ニ及ボス影響ニ就テ（第二回報告）

佐藤秀三君（東京傳研）

著者ハ本會第三回總會ニ於テ强毒ノ結核菌ヲ以テ反復感染セシムルコトガ却ツテ一回ノ感染ヨリモ罹患ノ程度輕度ナリシヲ報告セシガ其後數回此ノ實驗ヲ繰リ返シ觀察ヲ密ニスルニ及ビテ尙ホ次ノ事實ヲ追加スルコトヲ必要トセリ。

一、强毒菌一・〇mgヲ毎週一回反復注射セルモノハ同量一回注射ノモノニ比シ一般ニ輕度ノ變化ヲ呈スルヲ常トスルモ、就中淋巴腺竝ニ脾臟ノ變化ニ於テ其差著シキヲ見ル。

二、右ノ差ノ最モ顯著ナルハ第四週ヨリ二十週迄ニシテ其以後ニ於テ尙生存スルモノニ就キテ兩群ニ於テ此差漸次減退シ何レモ結締織ノ增殖益〻多キヲ加ヘ兩者ノ區別不明瞭トナル。

三、反復注射ヲ受ケタルモノニハ十頭ニツキ約二頭ノ割合ニ一回注射ニテ終リタルモノニ比シ却ツテ變化甚ダ强度ナル